

広報委員会だより

木花 光

現広報委員（浅井俊弥、川口博史、塩谷千賀子、野村有子、林正幸の各先生と小生）はすでに2年勤めており、平成14年7月で交代のはずでしたが、原紀道会長の急逝という非常事態発生のため、続投することになりました。この混乱のため、「神皮」本号の編集についての広報委員会は、例年より大分遅れて8月末に開かれました。

現職会長の御逝去であり、本号は原先生の追悼特集号とすることが即決されました。原先生の偉大さを反映して、原稿を依頼した先生以外の先生からも多くの玉稿をいただきました。改めて原先生の御冥福を祈ります。

前号で始めた「シリーズ・病院」は好評（と思ってます）なので続けることにしました。原稿を依頼しました時は、よろしく願います。

10号の表紙は中野政男元会長のお嬢様で、栗原誠一新幹事長の義妹の中野祐美子様をお願いしました。今までお願いしていた花岡宏和先生のお嬢様と同じく、その道のプロだそうですが、無料でやっていただきました。

本誌も10号となり、先生方、MRの方にもよく読まれているようです。ワニの写真も大好評(?)だったようで、よく話題に出ます。このため広告媒体としての価値も高まり、9号では32ものメーカーより広告をいただき、皆様よりの年会費を全く使わずに発行でき、しかも少しの黒字を計上することができました。メーカーの皆様、ありがとうございます。引き続きましての御支援をよろしく願います。無報酬、さらに交通費、通信費など自弁で御活躍いただいている広報委員の先生方も本当に御苦労様です。もちろん、雑誌で一番大切なのは記事です。今まで玉稿をお寄せいただいた先生方、ありがとうございます。まだ書かれていない先生方も、今後どうぞよろしく願います。

平成14年10月に新会長、新幹事長が決まりましたが、栗原新幹事長の「委員会は人材発掘の良い機会である」とのお考えに基づき、本誌の投稿常連である宮本秀明先生に11月より広報委員に加わっていただくことにしました。非常にヤル気の宮本先生のことですから、11号からは先生の文が半分以上を占めて、「○○○芸能」のような雑誌になることが危惧されます。お楽しみに……。



特別付録：広報委員長の動静

またオーストラリアに取材に行ってきました。取材費は出ないんですかね。抱いているのは太ったワニではありません。やはり有袋類のウォンバットです。

パースの近郊の名所ピナクルズを見た後、砂丘に寄りました。この日は日本人3人、英国人10人のツアーだったのですが、誰もサンドボードをしようとはしません。英国人もシャイなのです。それで私がトライすることにしました。けがをしても訴えませんという書類にサインした後、のぞいてみると絶壁で足がすくみます。それで少しでも斜めに滑ろうと思ったのがまちがいで、途中でひっくり返りました。登ってきたら、もう1回やれと皆が言います。つい、やってしまいました。今度は快調に水平なところまで滑れました。

しかし、ここからが大変でした。下から見ても、最後はほぼ垂直に見える砂の壁で、3～4階の高さがありそうです。登ろうとしても足がズルズル下がり、ほんの少ししか登れません、垂直の四つん這い状態で、ボードも持って心臓バクバクでやっと登りました。サンスクリーンを塗っていたため皮膚はザラザラ、財布の中まで砂だらけになりました。



福祉部だより



滝沢清宏

互助会員による代診を主な活動にしている。互助会は加藤安彦前々会長の肝煎りで作られた。会則も立派なものが出てくる。しかし引き受けた人がいい加減なのでメンバーが増えない。困ったものである。医者の不養生といって、病を良い方に解釈し、とことん頑張る場合が多い。私は2回はそうだったが、3回目の胃癌はカウンターパンチ並みで大変困った。幸いお富さん（富澤尊儀先生）が週2～3回の代診をしてくれたので何とかになった。互助会の活動はこれ迄4回出動した。加藤安彦、富澤尊儀、高梨先生らに感謝の気持ちで一杯である。少しずつでも活動を続けてあと10年頑張ればメンバーもかなり増えてしっかりしたものになるであろう。誰か後任はいないだろうか。それまで頑張る。



産業医委員会だより



佐藤龍男

この度、神奈川県皮膚科医会産業医委員会のお世話役を仰せつかりました、佐藤で御座います。故原紀道前会長から産業医委員会を手伝ってこないかとのお話を頂いたのは、私が比較的早く産業医の認定（昭和61年）を取得していたのと、又、産業医の資格をお持ちになられておられる皮膚科の先生が少なかった為と思います。大先輩の先生方がおられる中で、微力な私では何もお役に立てることはありませんがと申しあげましたが、それでも良いとの大変温かいお返事を頂き感激致しました。

産業医委員会の現在に至るまでの経緯を簡単に述べますと、加藤安彦元会長が神奈川県皮膚科医会に産業医委員会を設置するよう提言され、産業医の草分けの新関寛二先生が神奈川県皮膚科医会例会で産業医の概念・職務内容等をご発表されました。又、新関先生から我々産業医にマニュアル等も頂きました。

以前、新関先生から産業医のアンケート調査があり、調査結果で12人の先生が認定をお持ちであることが判明しました。平成12年12月に横浜の崎陽軒で、故原紀道先生、加藤安彦先生、菅原信先生、新関寛二先生、富沢尊儀先生、木内豊治先生、平松正浩先生、私（佐藤龍男）の8人の出席で準備会が開催されました。平成13年の12月に常任幹事会があり、病をおして原紀道前会長がご出席され決意の程を述べられたのが、記憶に鮮明に残っております。私はオブザーバーとして末席を汚しておりましたが、産業医委員会の活動方針について聞かれました。

平成14年5月11日に第1回の産業医委員会が崎陽軒で開かれ、現会長の菅原信先生、加藤安彦先生、新関寛二先生、富沢尊儀先生、木内豊治先生、平松正浩先生、私の7人が集まり、再度神奈川県皮膚科医会の全会員にアンケート調査を実施することが決まりました。474人中152人から回答を頂きました。又、産業医が19人おられることも分かりましたので、その先生方に委員会へのご協力をお願いしているところで御座います。これから産業医を目指している先生がおられましたら、是非、産業医委員会のメンバーに加わってご活躍頂けます様お願い致します。

来春には、新しく参加された先生方と第2回産業医委員会が開催され、アンケート調査での委員会への要望事項を検討し、可能なことから実行に移せます様努力して参りたいと思っております。

産業医委員会の育成に、今後共、会員の先生方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

在宅医療部会だより

栗原誠一、増田智栄子、浅井俊弥
野村有子、林 正幸、渡辺知雄

在宅医療部会は、楽しく活動しています。年に1～2回の勉強会を企画していますが、メールで連絡をとりながら、決めるときには例会の前に集まったりして、全員参加型で話題をとりあげていきます。

情報によりますと、想像以上の方が往診をされているようです。一緒に企画実行してみませんか？ 楽しみたい方は、部会のメンバーにコンタクトをとってください。

第8回勉強会報告

日時：平成14年2月23日（土）午後4時～9時

会場：介護用品見学会 神奈川県福祉プラザ（横浜三越裏）

講演会・懇親会 崎陽軒本店（横浜駅東口）

参加者：会員医師21名、コメディカル45名；計66名

共催：科研製薬株式会社

講演テーマならびに講師：「車いす使用者の褥瘡の予防と再発防止に不可欠なシーティング」

アクセスインターナショナル 山崎泰広氏

講演内容：

①介護用品見学会

神奈川県福祉プラザにおいては、介護支援課の鈴木雅彦氏ならびに（株）ケーブの竹田和博氏による解説を伺った。展示してある各種エアーマットや車椅子の特性、体圧計の使用法、食器などの自助用品など、実際に触れて体験した。

②講演会

山崎泰広氏の講演では、患者を運ぶための車椅子ではなく生活の場としての車椅子の考え方を学んだ。個人の能力を最大限に発揮できるように、安定性と快適性を提供し、褥瘡を予防することが「車椅子上のシーティング」におけるゴールであると話された。達成するための姿勢保持については、骨盤模型を用いて座圧分散の基本は3点保持ではないことを説明された。また、褥瘡予防のクッションには、反発力のないこと、骨ばった部分を柔らかく包み込むこと、「ずれ」を防止すること、底づきを防止することが必須だということ、実物を持参されて示された。

以上

第9回勉強会報告

日 時：平成14年9月12日（木）午後7時～9時

会 場：ホテルリッチ横浜「櫛の間」

参加者：会員医師60名、コメディカル61名；計121名

共 催：興和株式会社

講演テーマならびに講師：

イントロダクション 入院中に生じた大きな褥瘡 いずみ野皮ふ科 増田智栄子

I. 褥瘡対策未実施減算等保険制度について 興和株式会社学術部 高尾幸成

II. アンケート調査の集計報告 野村皮膚科医院 野村有子

III. チームでの褥瘡管理 国立霞ヶ浦病院皮膚科医長 村木良一

講演内容：

【イントロダクション】

市内の病院から退院した下半身麻痺患者に大きな仙骨部褥瘡が生じていた。入院中に生じたもので、退院時に褥瘡の管理について指導がなされていなかった。病院での褥瘡予防や病診連携の必要性を示唆する例であった。

【I. 褥瘡対策未実施減算等保険制度について】

平成14年10月より病院では、院内に「褥瘡対策チーム」を設けて褥瘡の予防と治療に努めないと「減算」されることになる。総ての入院患者に対して入院時に自立度を測り、ハイリスク患者には看護計画を立てる。厚生労働省、日本褥瘡学会からの資料をもとに、具体的な活動モデルと未実施で褥瘡ができた場合の経済的な損失を示した。

【II. アンケート調査の集計報告】

神奈川県内で皮膚科医会会員が勤務する57病院に「褥瘡対策チームの現況アンケート」調査を頼んで、37病院から回答があり、34病院を解析対象とした。

9月初旬までの調査で、72%が既に活動を始めており、87%で皮膚科医が関与していた。半数以上の病院が、年に12回以上の会議を予定していた。詳細は雑誌に投稿予定。

使用されていた各種エアーマットを、特徴と価格とともに供覧した。

【III. チームでの褥瘡管理】

はじめに、予後の悪かった褥瘡症例では肺炎や褥瘡からの感染症、脳血管や循環器の障害が悪化要因になっていたことを示した。褥瘡の重症度を示すスケールとしてDESIGN-P分類が提唱されるが、福井の色分類は今後も有用であること、発生の危険度スケールについては全身状態も把握できるブレイデンスケールが有用なこと、感染の徴候はガーゼの色と臭いで判断できることなど。また、口腔ケアが、誤嚥性肺炎の予防、活動性の維持に有益で注目すべきである。そして、チーム医療では医師、看護師、ケースワーカー各々の役割があり、病院、開業医、訪問看護の連携の重要性について解説した。

以上

学校保健委員会だより



岩井雅彦

今年度の活動報告をさせていただきます。

1. 平成14年度第1回学校保健推進委員会（日臨皮総会・平成14年4月14日）
 - 1) 神奈川県医師会の「専門校医（専門相談医）に関する調査・研究」について報告。
 - 2) 「ツベルクリン反応、BCG接種におけるステロイド剤使用」について本委員会より厚生労働省健康局結核感染症課に要望書を提出。
詳細は日本医事新報（No.4070、94～95ページ）。
 - 3) 都道府県における皮膚科学校保健活動の現況報告。
2. 神奈川県医師会学校医部会発刊の平成13年度「専門校医（専門相談医）に関する調査・研究」を神奈川県皮膚科医会会員全員に郵送。（平成14年4月27日）
3. 平成14年度第2回学校保健推進委員会（平成14年9月1日）
皮膚科専門校医（専門相談医）の「いわゆるかながわ方式」の普及戦略について報告。
4. 神奈川県皮膚科医会学校保健委員会（平成14年10月12日）
出席者：菅原信、栗原誠一、村上通敏、武沼永治、田辺俊英、岩井雅彦 以上6名
 - 1) 平成6年度より開始された神奈川県医師会の「専門校医（専門相談医）に関する調査・研究」の概略を報告。
平成14年度は、平成11年度、12年度、13年度の総括を行い、神奈川県教育委員会へ提出予定。
平成15年度より、専門校医（専門相談医）制度を実施するにあたって理解を深めるために、神奈川県医師会理事、富永孝先生のご講演を予定。
 - 2) 日臨皮、学校保健推進委員会で「いわゆるかながわ方式」をもとに、全国的に調査・研究していくことを報告。
5. 神奈川県皮膚科医会第110回例会（平成14年12月1日）
「学校保健の話題」神奈川県医師会理事、富永孝先生ご講演。

今年から、専門校医（専門相談医）制度がスタートする予定です。会員皆様のご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

I T委員会だより

浅井俊弥

早いもので2002年ももうすぐ終わろうとしています。それにしても今年も景気が悪かったですね。これだけ落ち込むと、政府が公的医療費を削減しようとするのもやむを得ないです。さらに、医療に市場原理を導入せよと米国が圧力をかけているとのこと。必ずしも効率のよい医療を行っているとは思えない国が、何で命令するのと思ってしまう。日本の医師は多かれ少なかれボランティアの精神を持ち、社会に貢献しているわけで、経営の善し悪しだけではないでしょう！ やれやれ、医者の仕事も楽ではないので、少しでも楽しくやっていきたいものです。

さて、私のライフワークになりそうですが、今年から神奈川県皮膚科医会だけでなく横浜市の医師会でも情報システム部員というのを仰せつかり、I Tの仕事を始めました。医師会での仕事は、会員に対する情報伝達を速やかにペーパーレスで行うシステムの構築とコンテンツの準備・運用・評価です。

ハードの整備とソフトの充実が欠かせないのは何処も同じで、そこそこのマンパワーと様々な議論が必要です。私も故原先生から本会のI Tをやってくれと言われてから1年半ぐらいになるでしょうか。在宅部会のメンバーの小規模なメーリングリストでスタートしてから、徐々にですがハード面は前進したように思います。しかしソフト面がなかなか大変で、特にホームページに関しては、色々と技術的なバックアップも必要で、私個人の力ではどうすることもできず、ただいま専門の業者に委託し、こちらも徐々にですが前進しています。この巻が皆さんのお手元に渡る頃にはおおむね完成していると思います。これが整備されれば会員の先生との双方向の情報提供が充実すると思います。週に1回は、われわれのHP (<http://kanahifu.umin.jp/>)を訪れていただき、色々なご意見をどんどんお寄せ下さい。県皮膚科医会の今後にますます期待して下さい。

(I T委員会：浅井俊弥 (tos@asai-hifuka.com)、栗原誠一、野村有子、袋秀平、杉田泰之)

帷子川のタマちゃん。わが街の今年の主役は彼？でした。
みなさんは帷子=かたびらと読めるようになりましたか

